



学校教育目標 かしこく たくましく 心豊かな 児童の育成
目指す児童像 瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く 鈴谷の子

令和5年4月10日号
家庭数配付

鈴谷小だより

令和5年度 第1号

鈴谷小Web ページアドレス

さいたま市立鈴谷小学校 ☎852-5675

<https://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/>



WE CAN BE “HEROES”.

校長 中田 清人

ひさかたの光のどけき春の日に静心なく花の散るらむ 紀友則

古今和歌集には、桜が散っていくのを惜しむ歌がたくさんあります。平安時代の桜は現在のものとは種類は違うのですが、古来より、桜を愛でる感性が、我々には脈々と受け継がれていることに驚きを感じます。校庭や鴻沼川沿いのソメイヨシノは、今年も美しい花を咲かせていましたが、紀友則の和歌のように慌ただしく散りつつあります。子どもたちと一緒に、満開の桜の花を眺めたかったのは、私だけではなかったことでしょう。

さて、季節が移ろいながら4月となりました。児童の皆さん、保護者の皆様、ご入学、ご進級おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。4月1日付け人事異動の発令により教職員組織が整い、児童数534名、21学級、教職員45名で令和5年度の鈴谷小学校がスタートしました。

本校での2年目となる4月3日、私は、教員になりたての頃からの教育信条を、再び教職員に語り、令和5年度の鈴谷小学校の教育目標を共有しました。私の教育信条は、「私の教え子の幸せが、私の幸せである」というものです。私は若い時から、この「幸せ」という言葉にこだわりをもっていました。教え子たちが、社会で生き生きと活躍し、いつの日か、私の髪をカットしてくれたり、家の設計をしてくれたり、料理を作ってくれたりしてくれたらいいなと思っていました。こうしたイメージの中で、彼らは私に、笑顔で自分の技能について自慢したり、苦勞を乗り越えた話をしたりするのです。私は、教え子を、このようにやりがいをもって生き、活躍できる人間に育てたいと考えていました。そして、それが実現している教え子も増えています。校長となった今、私の教え子の範囲は、教職員を介してさらに広がっています。校長は、言ってみれば「じいじ」です。

子ども達も、自分の「幸せ」を願い、学校で勉強したり、友だちと仲よくしたりしています。保護者の皆様、地域の皆様もまた、「子どもの幸せ」を願っており、我々教職員の大切なパートナーです。思いは一つです。ですから、例えば、我々教員と保護者の間に子どもを置いて話をすべきではありません。子どもを見る角度が違えば、子どもの違った面を見ながら話をすることとなり、意見がかみ合わなくなることがあります。それよりも、教師と保護者とが寄り添い、同じ方向から子どもを見ることで、目標とするイメージが共有しやすくなります。この「角度の話」は、比喩としてでもあり、現実としてでもあります。私は、こうした互いに寄り添う、言い換えれば「協働、協同すること」の象徴として、「この指とまれ」という言葉をよく使います。今年度も「この指とまれ」の合言葉のもと、鈴谷小学校の教育を力強く進めてまいります。

学校において、主人公は子どもたちです。しかし、子ども達を取り巻く我々大人も、一人ひとりが主人公の人生を生きています。目標や目的を共有した今、「やってもらおう」、「やってあげる」の関係ではなく、我々一人ひとりが主体的に、教育への営みを進めていきたいと考えています。「幸せ」を感じられたとき、誰もがヒーロー（主人公）となり得るのです。

「この指とまれ」を通奏低音としながら、目標達成に向け、子どもも大人も一人ひとりが自ら輝く、そんな学校づくりを目指します。



令和5年3月29日 鴻沼川沿いの桜